



2023年度（令和5年度）

「第3回 不登校を考える学習会」を行いました。

2024.2.10(土)

小郡市人権教育啓発センター

演題：「子どもの心の声に 耳を傾けて」

第3回の不登校を考える学習会を2月10日（土）に開催しました。

今回の講師には、元C&S音楽学院学院長で、現在、クラーク記念国際高等学校 教育顧問をしていらっしゃる毛利直之(もうり なおゆき)さんをお招きしました。毛利さんは、2001年に「C&S音楽学院」を設立され、2021年まで学院長を務められました。様々な問題を抱えた生徒たちが、音楽を通して、瑞々しく変わっていく姿は、NHKをはじめ民放テレビや新聞など、各種メディアで広く紹介されています。また、小中学校のPTA会長や早良区小学校PTA連合会会長を歴任されるなど、学校教育にもご尽力されてこられました。今回の学習会では、「子どもの心の声に 耳を傾けて」というテーマで、C&S音楽学院卒業生の篠原 凜太郎さんと一緒に、講演とミニコンサートをしていただきました。今回の学習会には50名の方にご参加いただきました。学習会の内容についてご紹介します。



○ 心の土台は「自己肯定感」

毛利さんからはまず、不登校の根本的な原因である「自己肯定感の低さ」に関するお話がありました。国際的にみても、日本の高校生の自己肯定感は、他国と比較して低い傾向にあり、自己肯定感を高めることが不登校の問題を解決するための第一歩であり、教育の一丁目一番地であるということでした。自己肯定感の低さを引き起こす原因として、子育てや教育現場で見られる「比較」や「脅迫」の影響の大きさについてわかりやすく説明していただきました。また、近年の進化が著しいSNSやAIの活用についての具体的なご経験について教えていただきました。子育てや不登校の問題をAI



に相談しているケースでは、情報を鵜呑みにして行動したことで、望ましくない結果をもたらし、状況がさらに悪化する危険性があるということです。また、簡単で便利なものの裏側に隠れている孤立した子育ての問題についてや、家庭内でのちがいを受け入れるための対話法「オープンダイアログ」の実践について、人と人が豊かにつながり励まし合う関係性が大切であるという、先生の経験に基づいた貴重なお話をしていただきました。参加者のアンケートからは、「1分1秒無駄のない講話でした。不登校、幸せな家族づくり、家族夫婦の仲が良いところからスタートしたいです。」「毛利さんのお話は何度も聞かせていただきました。オープンダイアログの対話方法、ぜひ身につけていきたいと思います。」「しっかりと子どものことを知って、だしめ、一緒に歩いて行くことが大切だと思いました。」などのご意見をいただきました。

○ 経験者として 今だから わかること…

学習会の中で、C & S音楽学院 卒業生の篠原凛太郎さんのミニコンサートがありました。篠原さんは、ご自身が不登校を経験され、当時は自分自身でもどうしていいかわからない状態だったそうです。親とのぶつかり合いや音楽活動を通して徐々に変わっていく自分自身のことについて、振り返ってわかることや気づいたことがたくさんあったそうです。「経験者」としての想いがこもった歌詞、透きとおった歌声、そして優しいメロディに、熱心に聴き入る参加者の姿が見られました。



参加者アンケートより

- 今がどんなに大切な瞬間か、一瞬一瞬、一日一日が貴重ということを見つめ直す機会になりました。
- 自分の中で漠然としている不登校児の原因や心理が少しですが理解できました。自己肯定感の高揚を根底に子どもに接していきたいです。
- ぜひ、オープンダイアログの対話方法を実践したいと思います。最後に流れたDVDもとても良かったです。
- お話がとてもわかりやすかったです。とくに自己肯定感を高めることの大切さを実感しました。また、篠原さんの歌声がとても心に響きました。
- 自分の子育てを改めて考えさせられました。今日の言葉かけ（おうむ返し）を参考にしていきたいと思います。
- 今年度初めて3回とも参加しました。とても勉強になりました。不登校のとらえ方がわかりました。

